

節末問題 3.5 の解答



問題 3.5.1 (1), (2)

表が出る確率が p=0.5、試行回数が n=10000 なので、3.5.6 項で述べた公式に代入すると、10000 回のうち表が出た<u>割合</u>の分布は、

- 平均: p = 0.5
- 標準偏差: $\sqrt{p(1-p)/n} = \sqrt{0.5 \times (1-0.5) \div 10000} = 0.005$

の正規分布に近似できます。回数に換算すると、平均 $\mu=5000$ 回、標準偏差 $\sigma=50$ 回となります。

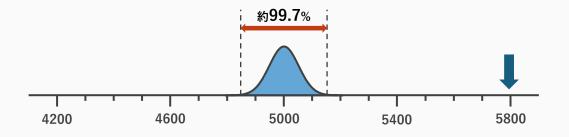
そこで、 $\mu-2\sigma=4900$, $\mu+2\sigma=5100$ より、回数が 4900 回以上 5100 回以下となる確率は**約 95**% です(68-95-99.7 則: \rightarrow **3.5.5項**)。なお、平均と標準偏差は、以下の公式から直接計算することもできます。

確率 p で成功する試行を n 回行ったとき、成功した<u>回数</u>の分布は、平均 $\mu = np$ 、標準偏差 $\sigma = \sqrt{np(1-p)}$ の正規分布に近似できます。

問題 3.5.1 (3)

- (1), (2) の結果から、約 99.7% の確率で表が出た回数が

となります。5800回はこの範囲を大幅に逸脱しているため、コインが出る確率は **50%ではない可能性が高い**といえます。

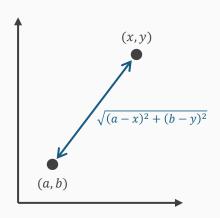


問題 3.5.2 (1)

以下のようなプログラムを書くと、ランダムに打った 100万個の点のうち何個が2つの円のうち少なくとも一 方に含まれたかを判定することができます。

たとえば著者環境では、このプログラムは 719653^{*} と 出力します。

なお、詳しくは 4.1 節で解説しますが、座標 (a,b) と座標 (x,y) の間の距離は $\sqrt{(a-x)^2+(b-y)^2}$ となります。

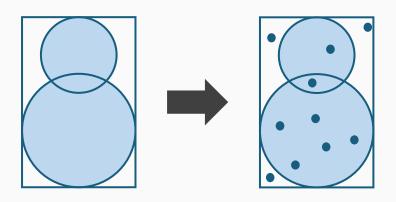


```
#include <iostream>
#include <cmath>
using namespace std;
int main() {
   int N = 1000000;
   int M = 0;
   for (int i = 1; i <= N; i++) {
       double px = 6.0 * rand() / (double)RAND MAX;
       double py = 9.0 * rand() / (double)RAND_MAX;
       // 点 (3, 3) との距離。この値が 3 以下であれば半径 3 の円に含まれる。
       double dist_33 = sqrt((px - 3.0) * (px - 3.0) + (py - 3.0) * (py - 3.0));
       // 点 (3, 7) との距離。この値が 2 以下であれば半径 2 の円に含まれる。
       double dist_37 = sqrt((px - 3.0) * (px - 3.0) + (py - 7.0) * (py - 7.0));
       // 条件分岐
       if (dist 33 <= 3.0 || dist 37 <= 2.0) M += 1;
   }
   // N 回中何回表に入ったかを出力
   cout << M << endl;</pre>
   return 0;
}
```

- ※ 著者環境では 719653 回ですが、718000~721000 回の範囲に入れば良いです。
- ※ Python などのソースコードは chap3-5.md をご覧ください。

問題 3.5.2 (2)

ランダムに点を打った領域($0 \le x \le 6, 0 \le y \le 9$)の面積は $6 \times 9 = 54$ であるため、下図の青色領域に入った点の割合を p とするとき、青色領域の面積は $54 \times p$ で近似することができます。



これを利用して面積を計算しましょう。たとえば著者環境での結果を使うと、 $54 \times 719653 \div 1000000 = 38.861262$ と計算されます。実際の値は約~38.850912677 ... であるため、0.02 以下の差におさまっています。